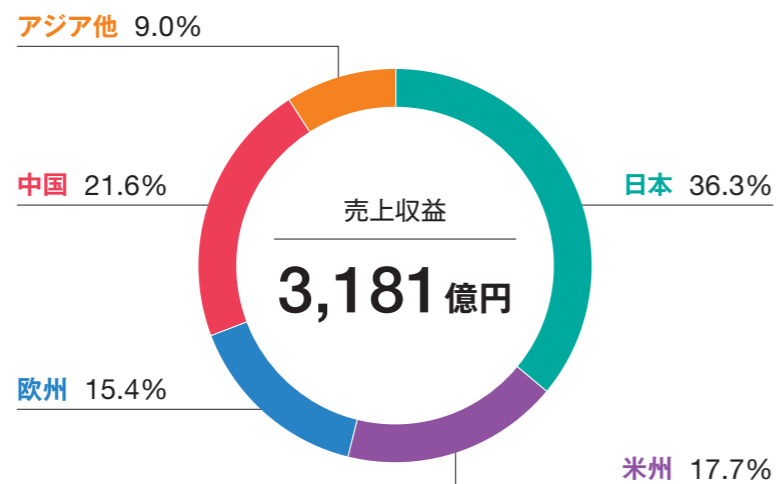


地域別事業レビュー

THKは成長戦略においてグローバル展開を標榜する中、日本・米州・欧州・アジアの4極において「需要地における製販一体体制」を構築しています。2021年12月期は、THK DXプロジェクトのもと「Omni THK」を全社的に推進しました。お客様の設備の予兆検知の実現に向けた製造業向けIoTサービス「OMNI edge」においては、製品面、および機能・サービス面においてさらなる拡充を図りました。生産面においては、自動化・ロボット化の推進による生産性向上に加え、2021年11月にインドの新工場が稼働し、日本ではTHK新潟、中国ではTHK常州、THK遼寧において増築新工場の建設を進めるなど、生産能力のさらなる強化を図っています。



日本

事業環境と業績概要

売上収益は前期比36.4%増加し、1,155億円となりました。日本では、産業機器事業において、引き続き回復基調で推移しているエレクトロニクス関連をはじめ、一般的に需要に回復の動きが見られました。そのような中、これらの需要をこれまでの工場拡張や、自動化、ロボット化による生産性向上に向けた取り組みなどにより、着実に売上収益へと繋げた結果、増収となりました。

2021年12月期の取り組み

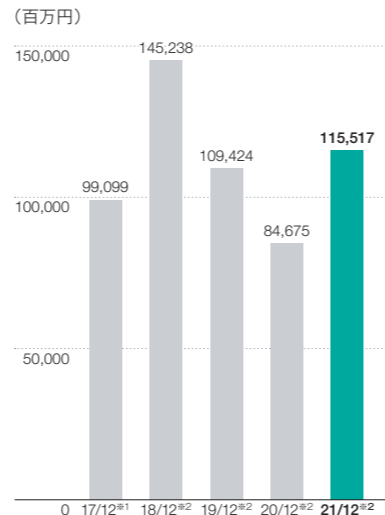
▶ 販売面

THK DXプロジェクトのもと「Omni THK」を全社的に推進しました。お客様の設備の予兆検知の実現に向けた製造業向けIoTサービス「OMNI edge」においては、製品面では2021年3月にはアクチュエータ向けをラインナップに追加し、機能・サービス面では、海外対応地域をさらに拡大させ、9月には新たな特典として「製造ゼロ待ちチケット」および「IoTリスク補償」の提供を開始しました。

▶ 生産面

産業機器事業における需要が好調に推移する中、自動化・ロボット化やデジタル技術を活用した各種取り組みを推進することにより、さらなる生産性向上を図り、着実に売上収益へと繋げました。

売上収益



※1 3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。
 ※2 当社グループは、2019年12月期よりIFRSを任意適用しており、2019年12月期との比較のため、2018年12月期の数値もIFRSに準拠して表記しています。

米州

事業環境と業績概要

売上収益は前期比22.3%増加し、563億円となりました。米州では、産業機器事業において、エレクトロニクス関連を中心に全般的に需要に回復の動きが見られる中、これらの需要をこれまで推し進めてきた生産性向上に向けた取り組みなどにより着実に売上収益へと繋げ、増収となりました。

2021年12月期の取り組み

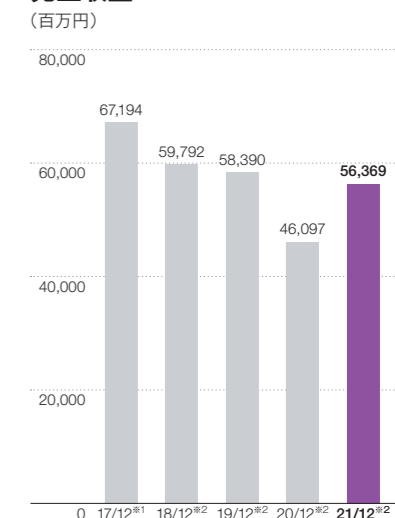
▶ 販売面

産業機器事業において、米国における成長市場の深耕とともに、幅広い顧客向けの販売拡大、そして競合奪取によるシェア拡大を図るとともに、コロナ禍においてオンラインを活用した技術交流会や訪問営業など、さらなる販売活動の強化に努めました。さらに、DXの取り組みを推し進め、業務プロセスの改善や効率化による生産性向上を図りました。

▶ 生産面

業界で唯一、北米に生産拠点を持つ強みを最大限に活かし、客先要求に対応した生産活動を進めるとともに、さらなる自動化・ロボット化やITツールの活用を推し進め、一人当たりの生産性向上を図りました。

売上収益



※1 3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。
 ※2 当社グループは、2019年12月期よりIFRSを任意適用しており、2019年12月期との比較のため、2018年12月期の数値もIFRSに準拠して表記しています。

欧州

事業環境と業績概要

売上収益は前期比30.3%増加し、490億円となりました。欧州では、産業機器事業において、一般的に需要に回復の兆しが見られる中、これらの需要をこれまで推し進めてきた生産性向上に向けた取り組みなどにより、着実に売上収益へと繋げました。これらの結果、増収となりました。

2021年12月期の取り組み

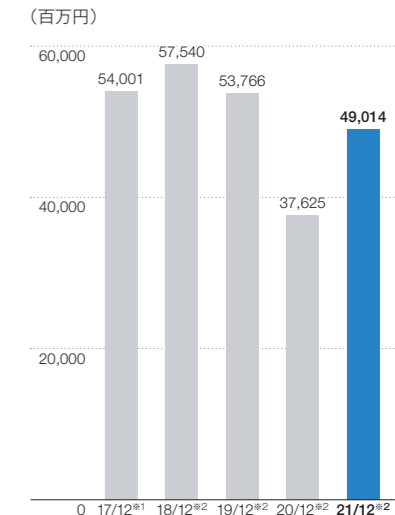
▶ 販売面

産業機器事業において、既存顧客の深耕に加え、幅広い顧客向けの販売拡大に向けた各種取り組みを積極化させるとともに、半導体、医療関連、ロボティクス、航空機/鉄道関連、EV関連など、これからの新たな成長分野を取り込むべく、業界別プロジェクトによる拡販活動を積極化させました。

▶ 生産面

生産方式の改善や新たな機械の導入などにより自動化・ロボット化を推し進め、生産性向上を図りました。加えて、検査方法の見直しや社員教育の徹底、そして検査データの自動取り込みによる加工プログラム補正などにより、品質管理体制のさらなる強化を図りました。

売上収益



※1 3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。
 ※2 当社グループは、2019年12月期よりIFRSを任意適用しており、2019年12月期との比較のため、2018年12月期の数値もIFRSに準拠して表記しています。

中国

事業環境と業績概要

売上収益は前期比101.9%増加し、686億円となりました。

世界に先んじて経済活動が再開され、一般的に需要の急回復が続く中、これらの需要をこれまで推し進めてきた生産性向上に向けた取り組みなどにより、着実に売上収益へと繋げた結果、増収となりました。

2021年12月期の取り組み

▶ 販売面

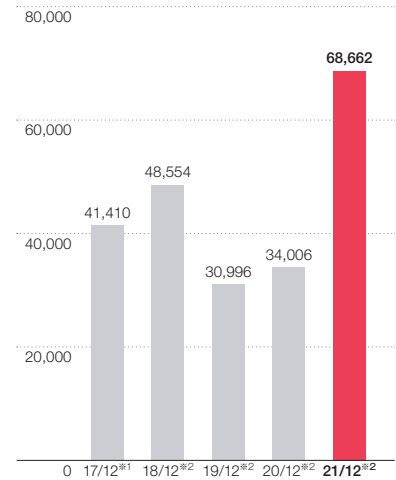
半導体関連、医療関連、EV関連など、これからの新たな成長分野を徹底的に攻略すべく、メーカー営業の強みを活かした様々な取り組みを推し進めた結果、急回復した需要を着実に取り込み大幅な増収へと繋がりました。さらに、中国大手ベンダーのインフラを活用したOMNI edgeの正式サービスを開始し、お客様への最適なソリューションサービスの拡充を図りました。

▶ 生産面

各工程における自動化・ロボット化の推進や、IoTを活用したデータ集計・分析などにより、さらなる生産性の向上を図り、急回復した需要を着実に売上収益へと繋がりました。さらに、中国における中長期的な需要の拡大を見据え、THK常州、THK遼寧の敷地内において新棟の建設を開始しました。

売上収益

(百万円)



※1 3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。

※2 当社グループは、2019年12月期よりIFRSを任意適用しており、2019年12月期との比較のため、2018年12月期の数値もIFRSに準拠して表記しています。

アジア他

事業環境と業績概要

売上収益は前期比72.5%増加し、286億円となりました。

インド・ASEANをはじめとして当社グループ製品への需要の裾野が着実に広がる中、当社グループにおいては販売網の拡充に加え、新規顧客を開拓すべく積極的な営業活動を展開しました。加えて、一部地域で中国における需要の回復の影響を受けたことなどにより、増収となりました。

2021年12月期の取り組み

▶ 販売面

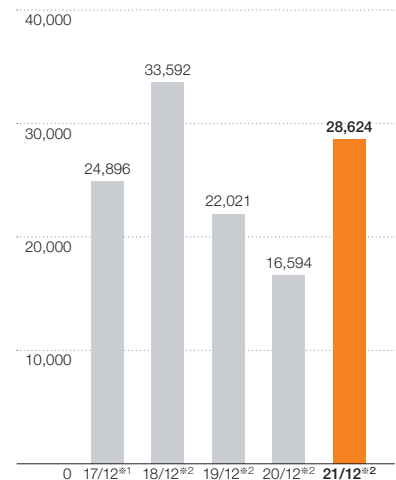
台湾では既存顧客の深耕と間接販売網の強化に加え、医療、食品、梱包関連などの新規分野の需要の開拓に努めるとともに、Omni THKやテクニカルサポートサイトの活用を推進しました。ASEANでは幅広い顧客向けの販売拡大を図るべく、Omni THKやテクニカルサポートサイトの活用を推進しました。さらに、オンラインセミナーや各種ITツールの活用などにより、電動アクチュエータの拡販を推し進めました。

▶ 生産面

各工場の生産工程における自動化・ロボット化の推進により、さらなる生産性の向上を図りました。中長期的な需要の拡大が見込まれるインドにおいては、2021年11月に新工場を稼働しました。

売上収益

(百万円)



※1 3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。

※2 当社グループは、2019年12月期よりIFRSを任意適用しており、2019年12月期との比較のため、2018年12月期の数値もIFRSに準拠して表記しています。